

陳情 第35号

受付 平成29年 4月17日

付託 平成29年 6月 8日

取手市民会館舞台そで入口改修に関わる陳情（バリアフリー取手 文化）

・陳情趣旨

取手市民会館は市内で最大の会館です。開館以来45年間、市民の文化芸術の発表の場としてその中心的役割を果たしてきました。今回の改修で多目的トイレにはオストメイト対策が施され、中二階の車椅子席に上がる段差解消機、玄関ホールの改修等、観衆の立場からはとても利用しやすい会館に生まれ変わりました。大変ありがたい事です。

又、出演者側から見れば、緞帳・照明器具等の吊り下げ装備も改修され、落下物からの安全が確保されたわけです。

しかし、多くの出演者が楽屋として使う福祉会館から、市民会館舞台そでに入る入り口には、急で狭い階段と大型楽器（ティンパニー・ビブラフォン・マリンバ等）が通れないドア枠があります。

今回この部分の改修は後回しとなりました。残念なことです。

高齢者や障がい者の音楽活動等が今程盛んではなかったこと。

バリアフリーなる考え方が我が国には根付いていない頃の設計であり、当時の設計者や行政を責めるわけにもいきません。

取手市の高齢化率は、4月1日で32.3%を越えました。

高齢者の健康寿命を延ばしていることにも、普段の音楽活動等も寄与しているのではないのでしょうか。

・陳情事項

①市民会館舞台そで進入経路に、バリアフリー法を考慮した傾斜のスロープを設置すること。スロープと曲がり角は、大型楽器の移送に適した幅とすること。

②市民会館舞台そで福祉会館間のドア枠は大型楽器の移送に差支えの無い幅に改修すること。

ただし、ドア枠拡張工事は、次回市民会館改修工事の時点でかまわない。

以上、陳情いたします。

平成29年4月17日

陳情者

住所 取手市宮和田 985-19

氏名 斉藤たかし ほか321人

取手市議会議長 佐藤 清 殿